

科目の名称： 比較金融システム論	(2 単位)
<p>講義の内容・目的：</p> <p>世界経済における中国のプレゼンスは、実体経済のみならず、金融経済の面においても、確実に増大している。そのため、世界経済や日本経済の行方を展望する際には、中国の金融の動向を視野に置くのが必要不可欠なことになっている。本講義は、中国の金融システムについて、日本の金融システムと比較しつつ、中央銀行、金融市場、金融政策、金融機関、金融システム改革、外国為替相場制度、という 6 つの面から勉強していくことにする。</p>	
<p>シラバス：</p> <p>第 1 回：イントロダクション  （金融システムとは何か？比較金融システム論とは何か、(理論的枠組み)  講義の概要、成績の評価方法など)</p> <p>第 2 回：中国と日本の中央銀行（沿革、役割、改革の推移など）</p> <p>第 3 回：中国と日本の金融市場（Ⅰ 短期金融市場）  （マクロ経済学の“金融市場と利子率”を復習した上で、進める）</p> <p>第 4 回：中国と日本の金融政策（公開市場操作、準備率、公定歩合）  （第 2～3 回、およびマクロ経済学の“貨幣の供給”を復習した上で、進める）</p> <p>第 5 回：中国と日本の金融市場（Ⅱ 資本市場～①資本市場の概要）  （A 株市場と B 株市場など、中国特有の制度をわかりやすく説明する）</p> <p>第 6 回：中国と日本の金融市場（Ⅱ 資本市場～②資本市場の対外開放）  （資本取引自由化と対内・対外証券投資自由化）</p> <p>第 7 回：中国と日本の金融市場（国際金融センター構想：東京と上海）</p> <p>第 8 回：中国と日本の金融機関（Ⅰ 銀行、Ⅱ ノンバンク：証券、信託など）</p> <p>第 9 回：金融システム改革（Ⅰ 業務分野規制について）  （業務分野に関する規制改革、外銀による参入などを中心に進める）</p> <p>第 10 回：金融システム改革（Ⅱ 金利政策について）  （第 3～5 回を復習した上で、両国における金利自由化を中心に進める）</p> <p>第 11 回：金融システム改革（Ⅲ 金融システムの健全化と不良債権処理）</p> <p>第 12 回：中国と日本の通貨（円と元とはどのような通貨なのか？）</p> <p>第 13 回：中国と日本の外国為替相場制度（Ⅰ 固定相場制から変動相場制へ）  （ドル円相場をめぐる日米のやり取り、人民元切り上げ圧力など）</p> <p>第 14 回：中国と日本の外国為替相場制度（円の国際化と元の国際化）</p> <p>第 15 回：試験</p>	
<p>備考：</p> <p>(1) テキスト：プリント配布（フィナンシャルタイムズの英文記事を含む）  (2) レポート 1 回・ビデオ 1 回</p> <p>参考資料（松山大学図書館）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Allen F. and D. Gale(2000) <i>COMPARING FINANCIAL SYSTEMS</i>, MIT Press</li> <li>・ 建部正義（2009）『日中の金融システム比較』中央大学出版部</li> <li>・ 同志社大学人文科学研究所編（2010）『金融システム改革と現代経済』晃洋書房</li> </ul>	